

令和6年度 もっと安心農産物「半促成ミニトマト」防除暦【営農センター 干潟】

令和5年9月

農薬を使用する前に必ずラベルを確認しましょう。

JAちばみどり干潟町園芸組合ミニトマト部会 もっと安心生産グループ

月	旬	作業	病害虫発生時期	薬剤名	濃度・使用量	対象病害虫	使用時期	総使用回数	マルハナバチ影響日数
1月	上旬	ベッドづくり		D-D	15~20g/10a	ネグサレセンチュウ、ネコブセンチュウ	作付の10~15日前	1回	—
				ネマトリンエース粒剤	15~20kg/10a	ネコブセンチュウ	定植前	1回	14日
	中旬	定植		ベリマークSC	400株当り 薬量:25ml 水量:10L~20L (1株当り25~50ml)	アブラムシ類・コナジラミ類 ハモグリバエ類・アザミウマ類	育苗期 ~ 定植当日	1回	
下旬			スタークル粒剤	1~2g/株	ハモグリバエ類、コナジラミ類	定植時	1回	10日	
2月	上旬			プロポーズ顆粒水和剤	1500	疫病	収穫前日迄	2回以内	
	中旬			ベネビアOD	2000	オオタバコガ、コナジラミ類、アザミウマ類、アブラムシ類	収穫前日迄	3回以内	1日
	下旬			アフエットフロアブル	2000	葉かび病、すすかび病、灰色かび病、うどんこ病、斑点病	収穫前日迄	3回以内	
3月	上旬			ペンコゼブフロアブル	1000	疫病、葉かび病、輪紋病	収穫前日迄	2回以内	
				アニキ乳剤	2000	コナジラミ類、オオタバコガ、ハモグリバエ類 ハスモンヨトウ、ミカンキイロアザミウマ	収穫前日迄	3回以内	1日
	中旬			レーバフロアブル	2000	疫病	収穫前日迄	3回以内	
				ガードホープ液剤	4000	ネコブセンチュウ、トマトサビダニ	収穫前日迄	1回	
	下旬			ロブラール水和剤	1000	灰色かび病、輪紋病、斑点病	収穫前日迄	3回以内	
4月	上旬			グレーシア乳剤	2000	コナジラミ類、ハモグリバエ類、アザミウマ類、ヨトウムシ	収穫前日迄	2回以内	1日
				ディアナSC	2500	アザミウマ類、オオタバコガ、コナジラミ類 ハスモンヨトウ、ハモグリバエ類	収穫前日迄	2回以内	1日
	中旬			カーニバル水和剤	1000	灰色かび病、疫病、葉かび病、うどんこ病	収穫前日迄	2回以内	
				アニキ乳剤	2000	コナジラミ類、オオタバコガ、ハモグリバエ類 ハスモンヨトウ、ミカンキイロアザミウマ	収穫前日迄	3回以内	1日
	下旬			コサイド3000	1000	疫病	—	—	
5月	上旬			ベルコート水和剤	6000	葉かび病、灰色かび病	収穫前日迄	2回以内	
				カスケード乳剤	2000	マメハモグリバエ、ミカンキイロアザミウマ オオタバコガ、トマトハモグリバエ	収穫前日迄	2回以内	2日
	中旬			プレオフロアブル	1000	ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ハモグリバエ類	収穫前日迄	2回以内	1日
				アフエットフロアブル	2000	葉かび病、すすかび病、灰色かび病、斑点病	収穫前日迄	3回以内	
	下旬			ペンコゼブフロアブル	1000	疫病、葉かび病、輪紋病、すすかび病	収穫前日迄	2回以内	
6月	上旬			アフーム乳剤	2000	ハモグリバエ類、トマトサビダニ、オオタバコガ	収穫前日迄	5回以内	2日
				ディアナSC	2500	アザミウマ類、オオタバコガ、コナジラミ類 ハスモンヨトウ、ハモグリバエ類	収穫前日迄	2回以内	1日
	中旬			フルピカフロアブル	2000	灰色かび病	収穫前日迄	4回以内	
				モスピラン顆粒水溶剤	2000	コナジラミ類、アブラムシ類、アザミウマ類	収穫前日迄	3回以内	1日
	下旬			フェスティバルC水和剤	600	疫病	収穫前日迄	3回以内	
7月	上旬			グレーシア乳剤	2000	コナジラミ類、ハモグリバエ類、アザミウマ類、ヨトウムシ	収穫前日迄	2回以内	1日
				シグナムWDG	2000	葉かび病、灰色かび病、すすかび病、うどんこ病	収穫前日迄	2回以内	
	中旬			アフーム乳剤	2000	ハモグリバエ類、トマトサビダニ、オオタバコガ	収穫前日迄	5回以内	2日
				ベストガード水溶剤	1000	コナジラミ類、アブラムシ類、アザミウマ類	収穫前日迄	3回以内	10日
	下旬			コルト顆粒水和剤	4000	アブラムシ類、コナジラミ類	収穫前日迄	3回以内	3日~7日
				スタークル顆粒水溶剤	2000	コナジラミ類	収穫前日迄	2回以内	14日

ウイルス対策の為残さ処分

※天候等の影響により病害虫が大発生し、やむを得ず上記防除暦以外の農薬を使用する場合は、農薬記載簿に記載のある薬剤を使用する。

※防除暦・農薬記載簿以外の農薬を使用する場合は、使用前に確認責任者の了解を得て使用する。

※農薬使用前にラベルを必ず確認してから使用する。(農薬登録の遵守)

※育苗をする場合には、苗の周りに害虫がよらないようにネットの展張、光反射シート、黄色粘着版を設置する。(栽培終了時にはハウス内を蒸し込み虫の住処を無くす。)

※栽培終了時には、ハウス内の蒸し込みにて害虫防除をして下さい。

物理的防除も必ず実施しましょう！	
※防虫ネットによる害虫の侵入防止 (0.4mm網推奨)	※ハウス周辺の除草により虫の住処を無くす
※粘着トラップによる捕殺 (10aに200枚設置)	※ハウス内湿度を下げる対策

○土壌消毒剤

・キルパー ・バスアミド微粒剤 ・ディートラペックス油剤 ・ソイリン ・ネマキック粒剤 ・クロールピクリン(クロピコフロア、クロピク錠剤)

※各薬剤使用時には使用基準(使用時期・使用量・使用方法)に従ってください。

○コナジラミ対策

・トランスフォームフロアブル・ウララDF ・サンヨール ・ノーモルト乳剤 ・マッチ乳剤 ・エコビタ液剤 ・ベストガード粒剤

・チェス顆粒水和剤 ・モントフロアブル(蜂の影響日数・散布30日、灌注45日) ・ラノーテープ(2月上旬)設置

※コナジラミによる黄化葉巻病によりトマトが全滅する恐れがあります。コナジラミ並びに黄化葉巻病が発生した場合にはマルハナバチの使用を控えて農薬にて防除する。

○ハモグリバエ対策

・トリガード液剤 ・フレバソフロアブル5 ・スピノエース顆粒水和剤

○葉カビ病対策

・ダコニール1000(混用剤成分総使用回数注意) ・ファンタジスタ顆粒水和剤

○うどんこ病対策

・ジョウチノスケフロアブル ・プロパティーフロアブル ・パレード2070フロアブル

○疫病対策

・ホライズンドライフロアブル ・ランマンフロアブル

※散布記録簿については、年3作で同様のものを使用し、統一の農薬の使用を心がける